

令和7年産りんごの生産概況

1 気象（黒石：りんご研究所）

(1) 積雪深

積雪深は、令和6年12月中旬から3月下旬まで平年を大幅に上回って推移した。特に12月に積雪深が1mを超えたのは観測史上初めてであった。最深積雪は2月23日の177cm（平年97cm）で、観測史上歴代2位を記録した。消雪日は平年より9日遅い4月6日であった。

(2) 気温

平均気温は、5月下旬及び10月下旬から11月上旬を除き全般に高めに推移した。特に6月と7月の月平均気温は観測史上歴代1位を記録した。真夏日日数は計52日で、観測史上最多となった。

(3) 降水量

降水量は、5月から7月にかけて平年より少なく、特に7月の降水量は23.5mmで平年比20%と少なかった。その後、8月、9月の降水量はそれぞれ176.0mm（平年比127%）、135.0mm（平年比107%）と平年を上回った。

(4) 日照時間

日照時間は4月、5月及び10月を除き、平年より多く推移した。特に、7月は218.1時間（平年比139%）、8月は215.6時間（平年比124%）と多かった。4月から10月までの総日照時間は1,243時間（平年比105%）であった。

2 生育ステージ（発芽～落花）

黒石でのふじの発芽日は平年並の4月7日、展葉日は平年より4日早い4月14日であった。開花日、満開日は平年より2日早く、それぞれ5月5日、5月10日、落花日は平年並の5月16日であった。

五戸（りんご研究所県南果樹部）でのふじの発芽日は平年より3日早い4月4日、展葉日は2日早い4月17日であった。開花日は1日早い5月8日、満開日は2日早い5月11日、落花日は1日早い5月18日であった。

3 開花・結実と着果状況

開花量は各品種とも十分であったが、結実は、豪雪やマメコバチの減少などの影響で、地域や園地によっては、下枝の結実不良や、ふじで中心果の欠落などがみられた。

着果率は7月9日、10日に県が行った着果状況調査では、つがる41.9%、ジョナゴールド37.4%、王林43.0%、ふじ35.0%で、園地によってバラツキがあるものの、いずれの品種も標準着果率（つがる、ジョナゴールド：28.6%、王林、ふじ：25.0%）を大きく上回り、成らせ過ぎの傾向であった。

4 果実肥大（横径）

黒石における6月1日時点の果実横径は、つがるで2.2cm（平年比116%）、ジョナゴールドで2.4cm（平年比120%）、ふじで2.0cm（平年比125%）と平年を上回ってスタートした。果実肥大は、7月の干ばつの影響などにより鈍化したが、8月、9月の降雨により回復し、最終調査時では、つがるで9.0cm（平年比101%）、ジョナゴールドで9.8cm（平年比104%）、ふじで8.6cm（平年比97%）とほぼ平年並となった。

県生育観測ほのふじの果実肥大（最終調査時）は、青森市で8.7cm（平年比100%）、弘前市で9.3cm（平年比105%）、板柳町で8.9cm（平年比100%）、三戸町で9.1cm（平年比105%）でいずれも平年並からやや上回った。

5 収穫期

黒石での果実熟度の進みは、全ての品種で平年並であった。

収穫始めは、つがるが9月10日頃、トキが9月30日頃、早生ふじが10月1日頃、ジョナゴールドが有袋果で10月13日頃、無袋果で10月15日頃、ふじが有袋果で10月30日頃、無袋果で11月4日頃であった。

6 果実品質（黒石：りんご研究所）

つがるは、平年値と比較して、糖度及びヨード反応はやや高く、硬度及び酸度は同程度、着色指数は低かった。

トキは、平年値と比較して、硬度は高く、糖度及びヨード反応はやや高く、表面色指数は同程度、酸度はやや低かった。

ジョナゴールドは、平年値と比較して、ヨード反応はやや高く、硬度及び酸度は同程度、糖度及び着色指数はやや低かった。

有袋ふじは、平年値と比較して、ヨード反応は同程度、硬度、糖度、酸度及び着色指数は低かった。無袋ふじは、平年値と比較して、ヨード反応はやや高く、糖度は同程度、硬度、酸度、着色指数、蜜果率及び蜜程度は低かった。

7 主要病害虫の発生状況

(1) 病害

発生時期は、モニリア病の葉腐れ及び褐斑病が平年より早かった。

発生状況は、腐らん病がやや多く、炭疽病が一部地域でやや多く、褐斑病が散見された。

(2) 害虫

発生時期は、キンモンホソガの羽化が早かった。リンゴハダニ、ミダレカクモンハマキの越冬卵のふ化、モモシンクイガの産卵終息は平年よりやや遅かった。

発生状況は、ナミハダニ及びリンゴハダニがともに多く、ナシマルカイガラムシがやや多かった。キンモンホソガが8月以降一部園地でやや多く、モモシンクイガの被害果が津軽地域の放任園周辺の一部園地で散見された。その他、チャバネアオカメムシの越冬世代成虫が多く、津軽地域では、ヨトウガがやや多く、キリガ類、マメコガネが散見された。

8 生理障害等

ふじを中心にサビ果の発生が目立った。ふじのつる割れの発生は平年並であった。日焼け果、ビターピットが散見された。各地で鳥害がみられ、山手ではクマの食害がみられた。

9 気象災害

今冬の豪雪で、津軽地域を中心にりんご樹の樹体損傷や野ネズミ等による被害が発生した。4月14日から24日にかけて行ったりんご等果樹雪害合同調査では、被害面積は約5,900ヘクタール（13市町村）で被害金額は約207億円となり、平成17年の豪雪被害を上回る規模となった。特に、山手の園地で、普通台樹の幹裂開や主枝折損などの甚大な被害が発生した。

※令和8年りんご生産情報第1号は、令和8年4月上旬に発表予定。